

1 3 期 北摂の歴史ロマンを愉しむ（1 1 月②）

日時：1 1 月 1 4 日（金）10:00～12:00

教室：高槻センター街ビル

内容：班活動

ふれあい交流祭の展示物、役割分担等
最終確認



日時：1 1 月 1 4 日（金）13:00～15:00

教室：高槻センター街ビル

講師：中西 裕樹氏（京都先端科学大学 特任准教授）

内容：村重の乱と北摂の武将

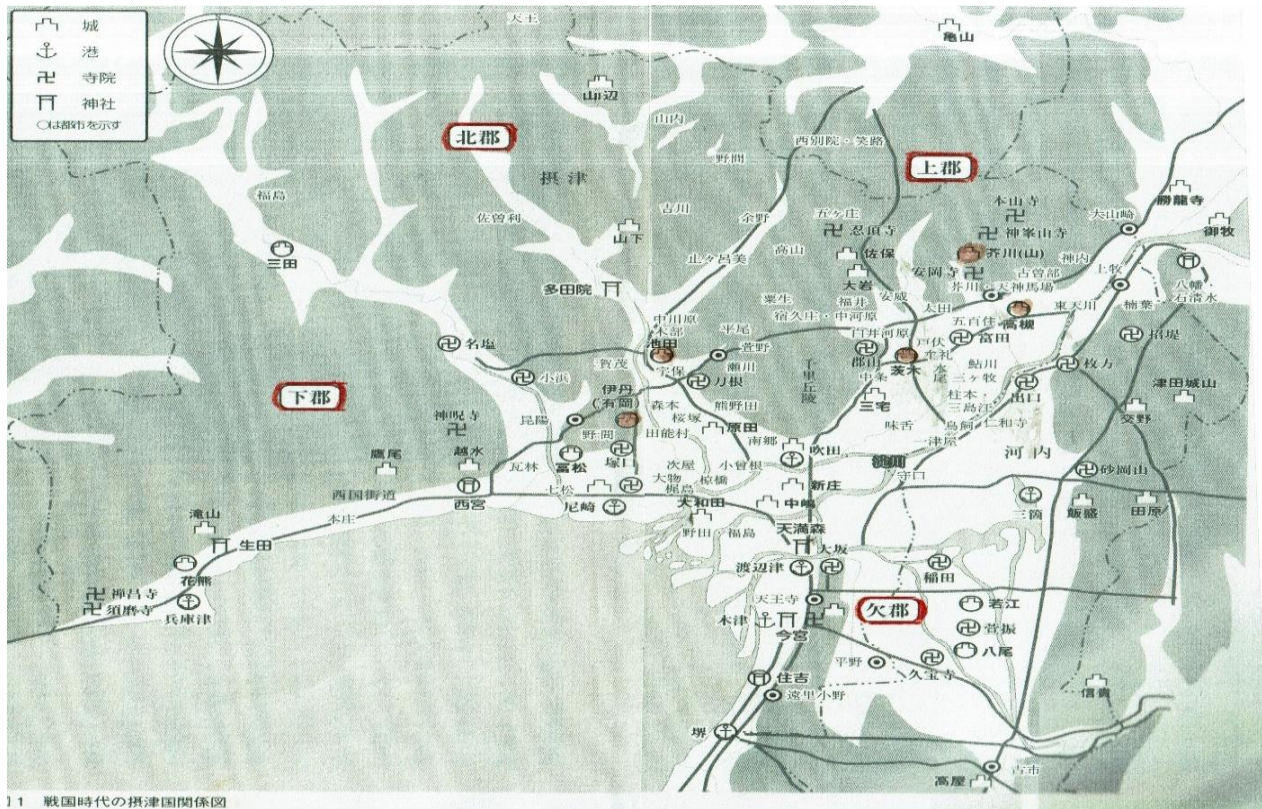


1.村重の台頭と戦国摂津

○摂津の色分け

摂津は千里丘陵を挟んで、東が上郡（芥川城、高槻城、茨木城）、西が下郡（伊丹城と池田城）、淀川以南が欠部（大坂本願寺）、北部山間地域は北郡と色分けされる。

摂津の戦国時代を見る時、東西問題に注目。



○主君池田勝正による村重の登用

池田勝正は1563年に家督についたが、同年信長勢に池田城を攻められ降伏。1570年金ケ崎の戦い（信長による若狭攻め）に参戦した後、家中が分裂した。

この間、村重を家臣とし、村重は勝正の娘(伝)を娶って、池田の一族衆となり、重臣として重用された。

○清秀の登場

1570年、池田二十一人衆（近隣の土豪たちが主体）が勝正を追放した。

その中心が村重であり、二十一人衆の一人に中川清秀がいた。

そして池田知正（長正の次男）が池田家当主となった。

○和田惟政の重臣高山氏

和田氏は甲賀和田の土豪。義昭の將軍擁立に奔走。1568年芥川城主となる。畿内の勢力を登用。その筆頭が高山飛騨守（右近の父）。

高山氏は島下郡高山庄の土豪。飛騨守は三好長慶に仕え、宇田の沢城主に。1563年、右近とともにキリスト教に入信。

村重が下郡の池田氏を中心になった頃、上郡の和田氏が千里丘陵に迫り、郡山合戦が起こった。



村重



清秀

2. 郡山合戦と村重の支配

○和田惟政の立場

1568年義昭は惟政、勝正、忠親（伊丹）に入魂を命じ、三守護とした。將軍家重臣の摂津配置は初。惟政は統括する立場にあったが、信長に疎まれ、「立派な城の一つ」（越水城か）が破却され、出家に追い込まれた。

○「境目」をめぐる

1570年信長は惟政を赦し若狭攻めに出陣。6月に姉川の戦いが起き、これを機に義昭・信長に敵対する三好三人衆が摂津に進出、やがて大阪本願寺が同調し、石山合戦が始まる。翌年8月、千里丘陵周辺で和田と池田の勢力が交錯し、義昭と三好・松永の対立が加わって郡山合戦が始まった。

○郡山合戦とその後

池田方が勝利、和田方はほぼ全滅。惟政は戦死。

1573年3月、村重は逢坂で義昭制圧に向かう信長を出迎えた。

同年7月、義昭は京都を追放され、室町幕府は滅亡した。



惟政

○信長重臣 摂津の村重

村重は右近に高槻城と当知行を安堵。村重の進出は、下郡勢力の上郡進出を示す。

村重は信長に「摂津国一職」を与えられ、池田家中を継承。1574年11月に伊丹氏を追い払い、居城を伊丹に移して、名を「有岡」とした。翌年に有馬氏を滅ぼし、「攝津守」として瀧安寺に禁制を出している。

○村重と右近

村重の支配の姿勢は強固ではなく、勢力範囲は下郡と有馬郡。

右近は上郡で文書を発給し支配していた。右近は村重の与力。

○宗教勢力との距離

村重は天正初年（1573年）頃から本願寺の働きかけを受け、摂津では真宗のみの信仰を認めるとしたが、高山氏は高槻の住民にキリスト教の信仰をすすめた。



信長



右近

3. 村重挙兵とその後

○村重挙兵をめぐって

1578年10月村重は本願寺に持ち掛けて反信長の兵をあげるも翻意して有岡に帰り、城に籠った。信長は思い上がりも甚だしい、と攻撃を開始。

○右近と清秀の投降

1578年11月信長は高槻城攻撃を始めた。城内では右近と父飛騨守が決裂し、右近は投降、飛騨守は有岡城に移る。茨木では清秀が籠城。村重が派遣した石田・渡辺兩人を追い出して信長に下る。

○右近 VS 清秀

1579年5月丹羽長秀や滝川一益らが、右近と清秀の争いの仲裁に立ち、五ヶ庄や一津屋周辺など、それぞれの知行地を定めた。

○有岡開城

1579年9月、村重は大坂本願寺と連携するため、有岡城を一族や家臣に任せて、尼崎城に移った。10月に荒木久左衛門が村重に尼崎城と花隈城放棄と家臣助命を信長に乞うよう出向くが、有岡城は開城された。

○信長にとっての右近と清秀

清秀の村重離反は下郡の武将が上郡で勢力を築くためであったが、右近とは厳しい緊張関係が生じた。信長は清秀を村重の後継、右近を側近として遇した。

—「今日のひと言」—

- ・非常に複雑な話だったが、「摂津の色分け」「東西問題」という見方がとても参考になった。
- ・戦国時代の武将の活躍とその興亡を見るにつけ、自軍のテリトリーを守りつつ、他の軍勢の力加減を判断して行くという力量が試されている。
- ・和田惟政、中川清秀、茨木を拠点とする戦国武将の動きについて詳しい話を聞けてよかった。それぞれ生き残りをかけて、知恵を絞って渡り歩いたのだと思う。

(4班広報)